

## 令和3年度の重点目標

- 1 心身ともに健康で主体的に学び合う活力ある生徒の育成を見据え、諸活動への取り組みの奨励や本校の特色化の推進を実践する。
- 2 授業改善や面談重視により、生徒理解・生徒把握に努め、同時に生徒の学習意欲の向上や進路意識の醸成を図ることで進路希望実現を目指す。
- 3 地域社会に開かれた高校を心掛け、地域と積極的に関わろうとする意識を確立させることで、社会に生きる人間としての自覚を養わせる。

## 令和3年度 努力目標及び具体策

### 1 教務部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 学習指導要領に基づく教育課程を確実に運用し、新しい大学入試に対応する力を養成する。	(1) 新教育課程の実施に向け、情報収集・研究・計画し、新課程への円滑な移行を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科によるが、情報収集はできた。</li> <li>・ 新教育課程の実施に向けた取り組みをさらに継続していく必要がある。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科間で連携し、新教育課程への円滑な移行を行っていく。</li> </ul>
2. 令和3年度入試を確実に実施する。	(1) 一日体験学習、中学校訪問で、本校の魅力を広報し、志願者が増加するように努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校紹介DVDを作成し資料と共に各中学校に配布するなどの工夫を行った。</li> <li>・ 一日体験学習は中止となったが、中学校訪問が実施でき、評判もよかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度も、同様な広報活動を継続して行く。</li> <li>・ HPの充実を図っていく。</li> </ul>
	(2) 教員定数減・コロナ禍の状況の中で、特色選抜・一般選抜の実施方法を十分検討し、入試が円滑に実施できるように努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特色の規定等、昨年の反省を踏まえ改善を行った。</li> <li>・ 教員定数減の中で、例年になく見直しを行い入試が円滑に実施できる計画ができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き特色選抜の規定等の見直しを行っていく。</li> <li>・ 新たな計画で円滑に実施出来るよう調整していく。</li> </ul>
3. 各係が、創意工夫を重ね、見直すべき点を見直し、確実に職務を遂行する。	(1) 前年度の改善意見を参考にし、新しい視点で職務にあたる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍2年目の中で、工夫しながらできるだけ行事等を行えた。</li> <li>・ 広報係は、改善の余地がある。</li> <li>・ 教育実習係業務内容の簡素化が課題である。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ HPへの掲載について、職員への周知をはかる。</li> <li>・ 互いに声かけをし、遺漏のないよう職務にあたっていく。</li> <li>・ 教育実習係業務内容を検討していく。</li> </ul>
	(2) 係ごとの職務分析を明確にし、確実に職務を遂行する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校日誌、出欠統計など滞りなくできた。</li> <li>・ 庶務的内容が多い係りもあった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各職務のあり方を考えながら、改善案を検討していく。</li> <li>・ 確実な職務引継ぎを継続していく</li> </ul>

## 2 学習指導部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒の学習意欲を喚起することで、基礎学力の定着・向上を図ると共に、より高い学力の習得を目指す。	(1) 授業の工夫に努め、基礎・基本の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地歴科独自で外部職員を呼び特別授業が実施できた。</li> <li>タブレット等情報機器を使用した取り組みが紹介され、触発された。</li> <li>常に「何故」ということを意識して発問したが、生徒全員が意欲的に取り組んでいるとはいえ、基礎・基本の定着にも差がみられた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒同士で話し合う機会を増やし、積極的に授業に参加させ、定着を図る。</li> </ul>
	(2) 学習ガイダンスや普段の指導を通し、高校生らしい学習習慣を定着させるよう努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>例年どおり実施できた。</li> <li>学習ガイダンスや普段及び長期休業中の「学習記録表」の配布等により積極的な意識付けを行っている。また、放課後や土曜日に学習場所を提供している。</li> <li>普段の指導は徹底できない所もあったように思う。廊下、窓の荷物など学習環境を整える部分は温度差がある。</li> <li>「〇〇スクール」と冠した指導は悪くはないが、ここに参加した生徒のその後の学習状況が良くなったのか。どうなのだろう。</li> <li>日頃の指導を粘り強く実施しているが、生徒間の差が大きい。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>非現実的な数値より、実現できる目標値を設定する。</li> </ul>
2. 総合的な探究の時間の充実を図る。	(1) 他の分掌・校内組織と協力し、総合的な探究の時間に行う課題研究・進路学習の指導を効果的に行えるよう努める。また、評価方法について研究する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの整備もあり、研究環境の向上があった。</li> <li>理科の協力などもあり充実していた。生徒も熱心に取り組んでいたようだ。</li> <li>課題研究において地歴科の須藤伸先生が交流授業を実施した。</li> <li>本格的な総合探究のためには、相当な準備が必要である。それだけの人員が確保できないと困る。</li> <li>進路学習、課題研究を効果的にできたが、評価方法は難しい面があった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価方法について、検討する場を設ける。</li> </ul>
3. 現職教育の充実を図る。	(1) 新学習指導要領における観点別評価に向けた評価方法を各教科・各教員が研究できるよう、資料や研修の機会を提供するように努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議で学習指導部長より多くの資料が提供された。</li> <li>十分に検討できなかった。</li> <li>資料を提供していただき、ありがたかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>観点別評価の資料や研修の機会が充実していると良い。</li> </ul>
4. ボランティア活動、体験活動の充実を図る。	(1) 他の分掌・校内組織と協力し、ボランティア活動、体験活動を推進し、生徒が積極的に参加できるよう努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で制限も多く、十分な取り組みが難しかった。</li> <li>コロナ禍の影響により、活動が難しかった。</li> <li>感染状況により、推進できなかった。</li> <li>現在は厳しい状況にあるが、よく取り組んでいたと思う。</li> <li>栃木南小放課後教室は希望者が多かった。また、リピーターも多く、回を重ねるたびに自信につながるようだ。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策をしっかりと、積極的に計画する。</li> <li>(コロナが) 落ち着いたら、積極的に推進したい。</li> <li>来年度も可能な限り実施した方が良い。</li> </ul>

### 3 特別活動部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒の自主的・実践的活動を促し、生徒会の活性化を図る。	(1) 各種行事内容を十分に検討し、より充実したものにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナで制限のある中でも、工夫して実施することができた。特に紫陽祭が実施できたのはよかった。</li> <li>・ 野球応援の際、コロナで1年空いたためメール交換等で引き継ぎができていないことがあった。</li> </ul>
	(2) 各種委員会や一般生徒の協力を得ながら、役員が中心となって生徒会を運営する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紫陽祭が実施できたことで、各種委員会との連携がとれた。</li> <li>・ 次年度も協力を仰ぎながら連携していく。</li> </ul>
2. HR活動における生徒の主体性を育成し、望ましい人間関係の形成を図る。	(1) 各種委員会活動とホームルーム活動の連携強化を進める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動が活発な委員会もあるが、活動の機会が限られている委員会もあった。</li> <li>・ 活動内容の見直しと、積極的な取り組みを促していく。</li> </ul>
	(2) LHRのクラス別活動時間の確保と生徒による主体的活動を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間計画により活動時間の確保は為されたが、内容はクラス裁量に任せる形となった。</li> <li>・ 生徒の主体性を促す活動内容を提示していく。</li> </ul>
3. 部活動を通して、社会性の高い人間性を育てる。	(1) 部内の鍛錬に止まらず、異なる年齢層との交流、社会貢献活動（ボランティア）も推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍にあって、受け入れ中止の施設も多く、外部や地域との交流が難しかった。</li> <li>・ 感染状況を見ながら推進していく。</li> </ul>
	(2) 部内の鍛錬に止まらず、異なる年齢層との交流、社会貢献活動（ボランティア）も推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校行事全般の記事は更新も早く、内容も充実していたが、部活動に絞ると十分な広報活動ができていたとは言えない。</li> <li>・ 各顧問に対して積極的に働きかけ、記事の充実を図る。</li> </ul>

#### 4 生徒指導部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 体系的な指導体制のもと、全職員が互いに協力、連携して生徒指導に当たる。	(1) 職員間の共通理解を図り、全学年を通じた公平性のある容儀指導を行うことで正しい生活態度の確立を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年間に指導の差があり、学年間の情報共有が必要である。</li> <li>・ 日頃から情報共有を図るとともに、全職員で日常の指導を強化する。</li> </ul>
	(2) 渉外部と連携し栃木駅周辺での挨拶運動による地域との関わりや、昇降口付近での立哨指導により生徒の健全な育成を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、渉外部と連携したあいさつ運動は十分な実施はできなかったが、昇降口での教職員の立哨指導はおおむね実施できた。</li> <li>・ 昇降口付近での立哨指導を継続して実施していく。</li> </ul>
2. 教育相談を効果的に活用しながら生徒に対する生活支援を行う。	(1) 各学年との連携を密にしながら生徒の情報を収集し、それを関係職員と共有しながら生徒の理解・把握をすることで生徒の学校生活の支援や改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の情報共有はおおむね図れているが、多様な生徒がいて対応が難しくなっている。</li> <li>・ 引き続き情報共有を図るとともに、様々な状況に応じた支援や改善策の方法を検討していく。</li> </ul>
	(2) SCや外部機関との連携を図ることで、教育相談の校内支援体制の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SCの活用はおおむね順調にできている。更に教育相談の校内支援体制の充実を図る必要がある。</li> <li>・ 引き続きSCや外部機関と連携を図るとともに、教育相談の校内支援体制を検討していく。</li> </ul>
3. 交通ルールや社会規範を遵守する意識の向上を図る。	(1) 交通講話や自転車点検、通学路における交通安全指導を実施することで交通安全意識の高揚を図り、交通事故の撲滅を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通講話は新型コロナウイルス感染症の影響により予定の実施ができず、放送による簡易的な講話となった。交通安全意識の更なる高揚が必要である。</li> <li>・ 専門家による交通講話を実施するとともに、交通事故をなくすため、日頃より規範意識の向上を促す。</li> </ul>
	(2) いじめアンケートや外部機関と連携しながら種々の講話を実施し社会規範に対する意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育の実施やいじめアンケートによる早期対応により、社会規範に対する意識の向上をおおむね図ることができた。</li> <li>・ 引き続き人権教育の実施やいじめアンケートによるいじめの早期発見・対応に努める。</li> </ul>

## 5 進路指導部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒の志望や適性を把握し、それらを通して1人1人の進路意識を高める。	(1) 進路適性検査、進路資料の活用や、進路講演会、大学見学、翔南一日大学、合格体験発表会等の実施によるキャリア形成の実践（キャリアパスポートの活用）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスのために、今年もいくつかの行事が中止となり、大変残念である。進路探求講演会(1年)が実施できたのは貴重であった。</li> <li>コロナの影響で中止の行事について、代替の行事を検討する。(大学見学、翔南一日大学)</li> </ul>
2. 生徒に高い目標を設定させ、その達成に向けて努力させる。また入試方式の理解を深め自己実現に必要な要件を研究させる。	(1) 進路検討会等を充実させるとともに、各種の資料を分析、検討して提供し、志望校決定のための適切な助言をする。また総合型選抜、学校推薦型選抜の研究を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月の検討会は上位者について、文理合同で実施できた。資料の作成の負担が大きく、精選が必要である。総合型、学校推薦型の研究がさらに必要である。</li> <li>検討会資料の有効な活用方法、他校の総合型、学校推薦型の利用方法の研究。</li> </ul>
3. 志望進路の実現に必要な総合的な学力を養成する。	(1) 大学入学共通テストや入試問題等を分析し、校内模試・実力テストの作問に生かす。また結果分析を充実させ、授業改善や生徒の学習指導に資する。(特に大学入学共通テストや英語民間試験に関する情報の収集)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通テストの傾向や難易度がまだ定まらず、対策が容易でない教科が多かった。本試験は過去最低の平均点となり、本校も影響が大きかった。</li> <li>各教科で本試験を時間をかけて分析し、テストの作問や授業に生かす。</li> </ul>
4. 保護者や地域社会への広報活動に努め、進路指導に関する理解と協力を得る。	(1) 保護者面談、PTA総会、学年部会、支部会等を利用して進路情報を適切に伝える。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>どうにか例年に近い開催となり、多くの情報を伝えることが出来た。</li> <li>パワーポイントやZOOMの利用も考える。</li> </ul>
5. 新学習指導要領や高大接続に向けた進路指導体制を構築する。	(1) 調査書、活動報告書等の作成や、大学入試の出題傾向等に関する情報を収集し、周知活用する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新様式の調査書がほぼ完成し、利用することが出来た。活動報告書の作成方法を検討する必要がある。</li> <li>志望理由書が必要な大学が増えてきたので、対策を考える必要がある。</li> </ul>

## 6 健康指導部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒一人ひとりが心と身体の両面から健康管理ができるように指導する。	(1) 生徒が日頃から自分自身の健康について関心を持ち、感染症予防やけが防止等、積極的に自己健康管理が出来るよう、具体的アドバイスをする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終業式での講話や健康観察の裏面、授業やHRを通して特に感染症対策への注意喚起・啓発を行うことができた。生徒の主体性を育てたい。</li> <li>・ 保健委員を発信源とする、生徒による健康問題の提起・働きかけ（保健便りなど）を実施したい。</li> </ul>
	(2) 健康上配慮を要する生徒に対して、情報を共有し、連携を図りながら支援体制を強化する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象生徒についての情報共有を行い、必要に応じて関係職員との連携が図れた。</li> <li>・ 怪我や病気以外の心の問題で保健室に来る生徒への対応を教育相談係や担任と連携して対処する。</li> </ul>
2. 地域の方々と連携をし、安全で安心な学校環境を整備する。	(1) 災害時等の緊急事態発生時における教職員への周知及び近所の方々への事後の対応等を確立する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2回の避難訓練予定であったが、コロナの関係で1回目は防災教育に変更。校長先生のご指導で大変充実した内容を実施することができた。</li> <li>・ 近隣への対応については、確立できなかった。</li> <li>・ 栃木市との連携を図る。</li> </ul>
	(2) 救急患者の対応方法を明確にするため、生徒及び教職員を対象に講習会等を行い、危機意識の高揚を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒対象の救急法を夏休みに、先生方対象のAED講習を駅伝大会前に実施した。時間が短かったため、概略にとどまった。</li> <li>・ コロナの問題がなければ、消防署による講習を実施したい。駄目な場合でも、緊急時対応の講習会は継続していきたい。</li> </ul>
	(3) 安全点検を実施し、危険箇所の詳細を把握し早期に対処する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全点検を通して、身近の危険箇所について改めて確認し、改善することができた。</li> <li>・ 2学期終業式の安全点検は、2週間前に実施したため、省略した。</li> <li>・ 年何回実施すべきか確認が必要。</li> <li>・ 事務と連携を取りながら、危険箇所の早期改善に努める。</li> </ul>
3. 学校環境の美化活動を推進する。	(1) 清掃分担区の監督割りの工夫を図り、清掃用備品・消耗品の管理及び補充を迅速に行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不足分の用具については、事務と連携を図り早急に対応することができた。</li> <li>・ 教員定数減と生徒定数減に伴い、清掃分担の割り当てを再考する必要がある。</li> </ul>
	(2) 各清掃分担区において具体的な目標を定めるなどし、自ら積極的に美化活動に取り組めるよう指導する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃分担区内での仕事の割り振りを生徒自身に考えさせるなど、自ら考え活動することにつなげ、積極的に清掃に取り組めるよう指導した。</li> <li>・ 清掃終了の時間が守られず、帰宅する生徒も見受けられた。</li> <li>・ 清掃場所により、良く実施できている場所、監督人数の不足などから十分できていない箇所があるように思われる。校内全体で清掃の徹底を図っていきたい。</li> </ul>

## 7 国際理解部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 国際社会において、広い視野と自己表現力を持ち、主体的に行動する生徒を育成する。また「コミュニケーションとしての高い英語力」の習得を目指し、英語検定受験を奨励する。	(1) 国際交流活動への積極的な参加を促し、またその体験を多くの生徒が共有できるようにする。 ・ 「オーストラリア語学研修」、「イングリッシュキャンプ」への参加奨励 ・ (オー研) 報告会、紫陽祭のオー研等展示発表 ・ 「国際交流会」の実施 ・ 生徒向け啓発資料“Mini World”、“Global Village”の発行	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残念ながらオーストラリア語学研修は中止となった</li> <li>・ 2年生を対象に実施した。</li> <li>・ 国際交流会をZOOMにてリモート方式で実施した。</li> <li>・ “Global Village”を発行した。</li> <li>・ 生徒向け啓発資料“Mini World”をオリ・パラの内容で発行した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度も継続して実施する予定である。</li> </ul>
	(2) 英語検定受験の奨励	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1・3回英検の1次試験を本校で実施した。全学年の生徒が受験した。生徒の希望する進路実現に向けた基礎作りとなっている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度も継続して実施する予定である。</li> </ul>
2. 国際交流活動の活発化を図る。	(1) 「オーストラリア語学研修」、「イングリッシュキャンプ」「国際交流会」の円滑な運営を図り、内容の一層の充実を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二つの行事とも実施に向けて事前準備を実施したが、残念ながら中止となってしまった。</li> <li>・ 国際交流会をリモート方式で実施した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度も継続して実施する予定である。</li> </ul>
	(2) 受入及び派遣留学生に対する指導をきめ細かく行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例年実施している1年間の留学生の受け入れは中止となってしまったが、文部科学省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト」による受け入れを実施中である。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度も継続して実施する予定である。</li> </ul>
3. 高教研国際理解教育委員会および県高校国際教育研究協議会(国教研)等の事務局の職務を円滑に行う。	(1) 下記他の行事の準備・運営、また会計処理を円滑に行う。 ・ 役員会、総会および研修会 ・ 調査研究会 ・ 研究大会および講演会 ・ 国際理解英語弁論大会 ・ 国際理解弁論大会(日本語) ・ 研究紀要発行	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総会は書面開催。</li> <li>・ 教育研究会はリモートによる実施。</li> <li>・ 国際理解英語弁論大会、国際理解弁論大会(日本語)はDVDによる審査。</li> <li>・ 研究紀要を発行した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際理解部の全職員が協力して実施した。</li> </ul>

## 8 渉外部

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
<p>1. 保護者および同窓会員との連携協力を密にし、特色ある活動の有効な実施をはかる。</p>	<p>(1) ふれあい挨拶活動と学校美化活動について、現状に対応した効果的な実施を工夫し、保護者の参加数向上を目指す。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍の中で予定通りにいかなかったが、状況に応じて実施ができたと思う。</li> <li>・ ふれあい挨拶活動の参加状況は、今年度やや不振だったか。また、終りのところで連絡不十分のため保護者に迷惑をかけた。</li> <li>・ 学校美化活動については、検討を続けたが、適切な箇所が見つからず、今年度は休止となった。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どこに美化活動が必要かを教員側が把握しておけば、スムーズに検討できるのではないか。</li> </ul>
	<p>(2) 同窓生の学校行事への参加を促進し、キャリア教育の観点から、生徒の意識向上を目指す。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生対象の進路探求講演会は、年度当初の予定から延期されて実施されたが、とても良かった。生徒の意識向上に貢献したと思う。</li> </ul>
<p>2. 各行事への保護者の積極的な参加を促す。</p>	<p>(1) PTA行事（総会・研修旅行・学校美化活動）への保護者参加者数の向上を目指して、計画、広報を工夫する。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施できたPTA行事は学年部会、支部会、会報発行だけであった。</li> <li>・ 各学年部会が時期の変更やコロナ対策を講じた上で実施できてよかった。</li> <li>・ 支部会が開催できてよかった。学校に集まってもらうのは、とても良いと思う。</li> <li>・ 今後、PTA支部会のあり方は、教員の負担等も考え、検討すべき。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
	<p>(2) 学校行事（学校祭・持久走大会）の協力活動について、改善できる点を明確にし、内容の充実をはかる。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度、学校行事には保護者は不参加だった。この状況下ではやむを得ないと思う。</li> <li>・ 直接参加だけが協力ではないと思う。新たな形を考える時期になってきたのではないか。</li> <li>・ さまざまなノウハウの継承を考えると、2年続けて保護者の参加がないというのは、今後が懸念される。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
<p>3. PTA組織及び会計の適切なあり方を検討する。</p>	<p>(1) PTA組織・会計について、今後の状況に合った適切なあり方について検討し、変更しに備える。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計は適切に運用されていると認識している。通常のPTA行事ができないため、PTA会費の残高を考え、できる行事について検討すべきだったかもしれない。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>



9 1 学年

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 基本的な生活習慣を確立すると共に、特別活動への積極的な参加を奨励する。	(1) 教職員の共通理解のもと、服装頭髪指導を計画的に実施し、規則を遵守する態度の育成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒達はしっかり守れていた。</li> <li>・ 共通理解のもとよく実施された。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度も継続して指導していく。</li> </ul>
	(2) 部活動や校外活動への積極的な参加を奨励する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナの影響もあり、校外活動の参加が少なかった。</li> <li>・ ほとんどの生徒は継続できている。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習と部活動の両立の推奨を継続していく。</li> </ul>
2. 主体的な学習習慣を習得させ、基礎力の向上を図る。	(1) 学習記録表を活用し、生徒の主体的な家庭学習時間2時間以上(学年+1時間)の確保を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2時間以上やっている生徒の中に睡眠時間が十分に取れていない生徒が見受けられる。また部活離れにつながっている生徒もいる。</li> <li>・ 学習意欲喚起によく努めている。</li> <li>・ 主体的な学習に2時間取れている生徒は少ない。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路指導と併せて、生徒自らが目標を持って取り組めるような働きかけを考えていく。</li> </ul>
	(2) 種々のテストの結果を分析し、生徒各自の課題把握と改善に努めさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分析だけでなく生徒に提示して、学習改善を図るよう努めている。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続して指導していく。</li> </ul>
3. 一人ひとりの志望と適性を生かした進路指導を進める	(1) 適性検査、面談、オープンキャンパス等を通して個々の適性を把握し、生徒の進路意識を高め、適切な類型選択ができるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面談によく取り組んでいた。</li> <li>・ 類型選択の時間ももっと欲しかった。</li> <li>・ 制約がある中で出来ることはやれた。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度計画を見直していく</li> </ul>
	(2) 校外模試の実施、小論文や英検の指導を通して、進路実現に向けた基礎学力の養成を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ LHRや総合探究、授業や課題に含めたりするなど基礎学力の養成が図れたと思う。</li> <li>・ 模試は前後の働きかけで準備や復習が出来ていた。小論文は書けない生徒が多く、指導が難しかった。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続指導していく。</li> </ul>

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 教職員の共通理解のもと、容儀指導を計画的に実施し、生徒が誇りを持って制服を正しく着用できるようにさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 殆どの生徒は出来ていた。一部の生徒の指導が徹底出来なかった。</li> <li>・ 個別対応しながら概ね良く出来たと思う。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校全体で平常時の指導を行う必要がある。</li> <li>・ 根気強く指導する。</li> </ul>
	(2) 学校行事や部活動等の特別活動を継続して奨励し、充実した高校生活を送らせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校祭や駅伝大会、修学旅行等大変熱心に取り組んでいた。</li> <li>・ コロナ禍、出来ることを行った。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度、3学年としての意識を持たせ、行事・部活動にリーダーとして活躍出来るようにする。</li> </ul>
2. 主体的な学習習慣を身につけさせ、学力の向上を図る。	(1) 学習記録表を活用し、3時間以上の家庭学習の確立を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テスト期間以外の日になると不十分な生徒がいる。</li> <li>・ 毎日学習時間はある程度とれている生徒が多い。(2h前後)</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アプリに記録している生徒もいる。</li> <li>・ 何をやったか、どのような成果が出せたかという振り返りをしっかりやらせる指導が必要。</li> </ul>
	(2) 各学期の面談を充実させ、学習・進路・諸活動・交友関係の悩みに対して適切なアドバイスを送り、充実した高校生活を送らせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面談だけでなく、学習記録表上で簡単なやり取りを来るようになった。</li> <li>・ 日々の業務で、回数を増やすチャンスがない。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面談の機会を増やす工夫。</li> <li>・ 業務のスリム化が必要。</li> </ul>
	(3) 課題研究に主体的に取り組ませ、出来るだけ卒業後の進路に直結するような探究学習を目指し、取り組ませる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の進路を踏まえ、それぞれが役割を持って研究できた。</li> <li>・ (理系) 大学見学に行けたことでその後の研究発表に力が入って良かった。</li> <li>・ 進路について具体的に考えるきっかけになった生徒もいたようだ。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の見通しを立てた指導が必要。</li> <li>・ タブレット端末が全員で使えない状況だった。</li> </ul>
3. 一人一人の志望と適性に応じた進路指導を進める。	(1) 新型コロナウイルス感染症対策による進路の諸行事が中止になった場合、代替案等の実施方法を検討し、できるだけ生徒への進路の情報提供に努める	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順を踏んだ体系的な指導・研究は行っていない。</li> <li>・ 総探・LHRが限られてしまった。</li> <li>・ 様々な情報を集めきれなかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路の手引きを活用。学年会等で検討する機会を増やす。</li> </ul>
	(2) 校外模試の実施、小論文や英検等の指導を通して、早期の進路意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験はほぼ計画通り出来た。</li> <li>・ 結果を早めに把握し、反省を生かしている生徒がいる。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル機器を用いた情報提供をした方が良い。</li> </ul>

11 3 学年

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
<p>1. 最上級生としてふさわしい生活態度とリーダーシップの育成を図る。</p>	<p>(1) 全教職員の共通理解のもと、容儀指導を計画的に実施し、頭髪・服装に関する規則を遵守する態度の育成を図る。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の生徒が頭髪に関する規則を遵守できなかった。また女子の短いソックスがなかなか改善しなかった。</li> <li>・一部指導を要する生徒がみられたが、概ね良好であった。服装等は全体的にしっかりとしている。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部と連携し、適切な対応をとる。</li> <li>・経過観察をする。</li> </ul>
	<p>(2) 様々な学校行事を通して、最上級生としてのリーダーシップの育成を図る。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施できない学校行事があり、十分にリーダーシップを発揮出来なかった。</li> <li>・コロナ禍ではあったが、限られた中で精一杯努力する姿がみられた。</li> <li>・学校祭における企画の充実等、下級生の良き手本となった。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なアイデアをだし、コロナ禍の中、学校行事が実施できるよう工夫する。</li> </ul>
<p>2. 適切な学習習慣の確立を図り、基礎・基本を身につけさせ、学力の向上を図る。</p>	<p>(1) 授業に臨むにあたり、十分な学習時間を確保させ、授業中心の受験態勢の確立を図る。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスによって差があった。</li> <li>・スマホに時間がとられている生徒がいる。</li> <li>・全体的に学習態度は良かったが、一部気の抜けている生徒がいた。</li> <li>・良く出来た。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業担当者だけでなく、学年集会を活用し、授業の重要性を認識させる。</li> </ul>
	<p>(2) 校内・外部模試の分析を通して、進路実現のための意識の向上を図る。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試が集中する10月～11月は十分な分析が出来なかった。</li> <li>・全体的には良く出来たが、授業・課外授業の準備に追われ、分析にまで至らないことがあった。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模試の数を減らし、一つの模試で分析できる時間を確保する。</li> <li>・朝と昼休みの有効利用を考えたい。</li> <li>・時間的なゆとりがない限り、改善はできないように思われる。</li> </ul>
<p>3. 生徒の志望・適性に合った進路指導を図る。</p>	<p>(1) 面談を重視し、多くの面談機会を設け、生徒が希望する進路を正確に把握し、適切な助言をする。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの面談を実施し、一人ひとりに目を配り、きめ細かな助言できたが、時間確保に苦労した。</li> <li>・教科面談を取り入れたが、クラス生徒に対する面談にとどまることがあった。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業カットを考える。</li> <li>・様々な人からの助言機会があると良い。</li> <li>・生徒の希望進路を適切に把握し、進路指導部やベネッセ・河合塾等と連携を図り、情報を提供する。</li> </ul>
	<p>(2) 進路指導部と協力し、生徒の進路研究を充実させ、進路選択に十分な資料を提供する。また外部講師を招いた講演会等を実施し、生徒の進路選択の一助とする。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学訪問が難しい中で、外部講師を招き講演会を実施したり進路指導部と連携し、情報収集ができた。</li> <li>・十分という程情報提供ができなかった。また、様々な話を聞かせた方がよいと思った。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前例にとらわれることなく、柔軟に対応する。</li> </ul>

## 1 2 国語科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒が効果的な学習法を確立できるように指導する。	(1) 適宜学習法に関するガイダンス（全体・個別）を行い、発問意図を意識させた試験の振り返りと合わせて、自己の学習課題の明確化と具体的取り組みを進めさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンスは適宜実施できたが、自己の学習課題の明確化と具体的取り組みを進めさせる点としては、不十分だった。</li> </ul>
	(2) 課題により学習の習慣化を図り、自主的な学習につながる指導を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題によって、学習の習慣化は図ることはできたが、自主的な学習は限られた生徒のみである。</li> <li>課題の精選を行う。</li> </ul>
2. 基礎学力の定着および記述力の向上を図る。	(1) 小テストを活用して漢字・語句（現代文）や文法・句法（古典）などを継続的に学習する機会を設け、基礎学力の定着を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適度に小テストを実施し、基礎学力の定着を図ることができた。</li> <li>今後も継続して実施する。</li> </ul>
	(2) 思考力を鍛え、長文の記述に対応できる力の向上を意識した授業展開や課題の指示、作問を工夫する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>テストの作問などで記述問題を取り入れたりした。思考力を鍛える授業展開などは、今後の課題である。</li> <li>基礎となる語彙力の向上と分析的読みの指導を粘り強く行っていく。授業展開の工夫を図る。</li> </ul>

## 1 3 地歴・公民科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 地歴・公民科の教員が一体となって指導に当たることで、生徒の学習意欲の喚起と学習習慣の定着を図る。	(1) 文化探究について、昨年度の反省を踏まえて授業のあり方を工夫するとともに、新教育課程における各科目の探究活動のあり方について検討を始める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動は柔軟な計画によって満足のいく形となったが、数値化が大変難しかった。</li> <li>数値化する機会を今まで以上に増やす</li> </ul>
	(2) 教科会を活用して生徒の情報交換に努め、生徒の学習意欲の喚起や学習習慣の定着を図る指導法を共有する	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>意思の疎通を図り、熱心に語り合うことができた。</li> </ul>
2. 生徒の基礎学力の向上を図るとともに、大学入試に対応できる学力を身につけさせる。	(1) 前年度実施された大学入学共通テストの分析結果を踏まえて、授業やテスト問題の作成、課外のあり方などを検討し、指導法を確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度のみならず、試行テストも含め分析を行った。ただ、作問に多くの時間を要した。</li> <li>採点や分析のための時間の余裕がほしい。</li> </ul>
	(2) 基本的事項の確実な定着を図るため、小テストの内容を見直すとともに、成績不振者に対しては教科面談や補習授業等を実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>随時小テストの見直しを行い、教科面談を実施した。ただ、学年をまたいで授業を担当することが多い地歴科の教員は、学年ごとの別々のオーダーを受け入れることが難しい。</li> <li>課外のスケジュールなどの調整をしてから教科にオーダーを出してほしい。</li> </ul>

## 1 4 数学科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 家庭学習の習慣化を促し、基礎学力の向上と、考える力を身につけさせる。	(1) 予習・授業・復習といった学習のサイクルの習慣化を促し、主体的に学習できるように導く。また、観点別評価に結びつける方法を検討していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>週末課題テストを活用しながら、各学年で趣向を凝らし、予習・授業・復習のサイクルをある程度習慣化は出来たと思う。</li> <li>予習を含め意欲的に取り組む生徒と不十分な生徒との差はある。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に、学習に取り組めるよう指導を継続していく。</li> <li>観点別評価実施に向け、教科でさらに検討を進めていく。</li> </ul>
	(2) 必要な場面・状況で習熟度別授業や教科面談を行い、個々の生徒に応じた教材を提供し、学力向上へとつなげる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で早期に習熟度別クラスで授業を実施し、状況に応じた教材を扱うことが出来た。</li> <li>今後も習熟度別授業を展開し、学力向上につなげる。</li> <li>教科面談を適宜実施してきたが、今後さらに内容を充実できるよう努力する。</li> </ul>
2. 生徒の学習意欲を高め、進路実現に向けた実践力を養う。	(1) 土曜課外・平常課外の時期と内容を検討し、多くの生徒が主体的に参加するよう計画的に実施し、効果が上がるよう努力する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>平常課外、土曜課外を通し、各学年で工夫し、生徒が苦手とする教材を課外内で扱い、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。</li> <li>まず、年度当初の課外参加希望者を増やしたい。</li> </ul>
	(2) 大学入学共通テスト（数学）において得点率を全国平均に近づけられるよう、効果的な指導をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年の共通テストの問題は数学ⅠA、ⅡB共に難しく、全国的ではあるが、思うような点数を取ることが出来なかった。</li> <li>適切な教材を選定し、いろいろな問題に触れるよう指導し生徒のやる気を向上させた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科内で、共通テストの出題傾向を分析し、更に校内学力テストや定期テストでも扱うようにする。</li> </ul>

## 1 5 理科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 科学的な興味関心を喚起するとともに、授業内容の充実を図る。	(1) 理科への興味関心を高めるため、日常生活との関連をふまえた授業の展開を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>免疫のしくみとコロナウイルス感染症を関連させて扱うなど日常生活との関連を踏まえた授業展開により、生徒の興味関心を高めることができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も様々な話題を授業に取り入れられるようにしていく。</li> </ul>
	(2) 実験や観察などを効果的に取り入れた授業を通して、主体的かつ対話的な学びの実現を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来行ってきた実験の他、スマートフォンを活用した実験も行うことができた。</li> <li>タブレット端末の効果的活用や、電子黒板の利用も視野に入れた授業作りを検討していく。</li> </ul>
2. 生徒の進路実現のために、積極的な支援を行う。	(1) 各学年、クラス担任との連携を図りながら、理科系進学に関連する情報を提供して進路意識の早期確立を後押しする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科として、生徒や先生方に入試等の情報提供を行うことができた。しかし、生徒の進路意識の変容につなげることは難しかった。</li> <li>低学年のうちから授業等で情報提供をしていく。</li> </ul>
	(2) 外部関係機関との連携を図りながら、宇都宮大学高大連携講座や翔南サイエンスツアーの企画運営を行い、生徒の進路選択の一助となるよう支援する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍のもと、なんとか行事を行うことができた。一部実践的な講座を受けることによって、理工分野に興講座や味関心をもつ生徒が見られるようになった。</li> <li>次年度も引き続き開催できるよう検討していきたい。</li> </ul>

16 保健体育科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
<p>1. 健康・安全に対する意識の涵養と体力の向上を図り、主体的に授業に取り組む姿勢を育てる。</p>	<p>(1) 授業に向き合う姿勢を見直し、集団行動のマナーを身につけさせる。                      ・集合時間の厳守                      ・体育委員の役割の徹底</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業チャイム前に集合し、挨拶・準備運動が徹底できた。</li> <li>・体育委員も役割をしっかりと果たすことができた。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続指導する。</li> </ul>
	<p>(2) 体力の向上を目指して、スポーツテストの結果を踏まえたトレーニング方法を工夫する。                      ・体力の著しい低下を防ぐ工夫をする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施単元の種目に合わせたトレーニングを工夫し、準備体操後、毎時間2～3種目のトレーニングを実施した。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も感染状況を見ながら、感染対策に配慮し、トレーニングを工夫する。</li> </ul>
<p>2. 体育施設の管理を徹底し、有効的に活用を図る。</p>	<p>(1) 授業・部活動・行事等で体育施設を使用する場合は、関係する分掌、学年、顧問等との連携を図りながら円滑に使用できるようにする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、その他と連携を図りながら、円滑に体育館などの施設を使用することができた</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部顧問と連携を図りながら、円滑に使用できるよう、実施していく。</li> </ul>
	<p>(2) 体育施設の管理を確かなものにするために、点検・施錠・清掃等適切な取り扱いを徹底する。                      ・長期休業中における清掃担当の割り振り                      ・施錠の徹底</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施錠忘れを指摘されることがあった。長期休業中の清掃は担当部活動を割り当てていただき、清掃を実施できた。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部活動の顧問の先生と連携を図り、体育館施錠の確認を行うようにする。</li> </ul>

## 17 芸術科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
<p>1. 生徒一人一人の興味・関心を深め、学習意欲を高めるとともに、芸術の良さや美しさを深く味わいながら、基礎的・基本的内容の充実を図りつつ、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。</p>	<p>(1) 指導内容を精選し、表現活動の質をさらに高められるような授業の実践に努めるとともに、生徒の学習意欲の向上に努める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品が完成するまでの間、集中力を維持するためのさらなる工夫。</li> <li>・ 生徒の学習意欲が湧く授業作りをしていきたい。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 完成までのプロセスを個々で体験するだけではなく、クラス全体で共有し意識を高め合える関係性を育む。</li> <li>・ 制作だけでなくコミュニケーションの場を多く設け、質問しやすい環境作りをする。</li> </ul>
	<p>(2) 表現活動及び鑑賞活動の相互の関連を図り、自己のイメージをもって、意図に基づいて創造的な学習をより活発に行うことができるよう努める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現方法（歌唱・器楽）について意見を出し合い、個性を伸ばした表現に繋げるのために友人の意見を聞き視野を広げる学習活動を実践することができた。</li> <li>・ 作品を制作し、作品集を作るとともに展示をすることで他者の作品を鑑賞する機会を作った。鑑賞する時間を次年度は増やしていきたい。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品展示の回数を増やし、お互いの作品の鑑賞を行うなど、より創造的な学習を心がけたい。</li> <li>・ 教科書の作品だけでなく、生徒同士の作品の鑑賞も行っていきたい。</li> </ul>
<p>2. 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>	<p>(1) 活動の喜びを得るとともに、生涯にわたって芸術に親しむ態度や習慣を身につけられるようにする。また生活や社会の中の芸術文化と幅広く関わる資質・能力を育成するよう指導に努める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動内容と現在の日本の流行や生徒のニーズを取り入れ、芸術と社会の関わり方が多様なことを授業で伝えていきたい。</li> <li>・ 添削の回数を増やし、また机間巡視で注意点を言うことで、作品に意欲を持って向きあっていた。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内で生徒たちに身近な芸術文化を伝え、実際にその文化について、一緒に考察する場を設ける。</li> <li>・ 身近にある書作品などと関連づけ、より作品を向上させる機会をつくりたい。</li> </ul>
	<p>(2) 音楽・美術・書道の文化的・歴史的背景、我が国の伝統芸術などへの関心や理解を深められるようにする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術と文化の歴史を学ぶ上で、古典的な内容に偏ってしまった。</li> <li>・ 三味線の授業を実施する（3月）。</li> <li>・ 世界史、日本史などの内容と関連づけた。</li> <li>・ 興味関心を抱いてもらう為、書道史の説明をわかりやすいものにしていきたい</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代アートの歴史をさらに盛り込み、現代社会における、表現の自由を体験する。</li> <li>・ 文房四法などについても、日本の伝統文化と関連づけて学習させるとよかった。</li> <li>・ 教科書の内容+α、噛み砕いた説明を行う。</li> </ul>

## 18 英語科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 進学に向けた英語の基礎学力、応用力をつける。	(1) 生徒が、自学自習を習慣化できるように指導する。また、各学年段階での指導を工夫し基礎の定着から応用力へと結びつけられるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習意欲向上のため、各学年で工夫しながら、教科書等の学習プリントを準備した。また、生徒が購入した、単語問題集等を計画的に実施し、英語の読解力向上の一助とした。</li> <li>来年度も継続して実施する予定である。</li> </ul>
	(2) 大学入学共通テストの問題をよく研究し、生徒が対応できる力がつくように指導を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入学共通テスト問題を研究し、英語科の教員間で情報等を共有した。また、実力テスト等で出題し生徒への早期の意識づけとした。</li> <li>来年度も継続して実施する予定である。</li> </ul>
2. 英語の表現能力を伸ばす。	(1) 生徒が自分の意見などを英語で表現できるように、スピーキングやライティングの能力を伸ばすための指導を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生は英語スピーチコンテスト、2年生は英語プレゼンコンテストを実施した。ALTのT&amp;Tによる指導は生徒の学習意欲を向上させた。</li> <li>来年度も継続して実施する予定である。</li> </ul>
3. 資格試験、弁論大会などへの参加生徒の支援を効果的に行う。	(1) 資格試験受験者の指導を計画的に行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回英検（3年生対象）、第3回英検（1・2年対象）の1次試験を本校で実施した。1～3年生がほぼ全員受験した。生徒の希望する進路実現に向けた基礎作りとなっている。</li> <li>来年度も継続して実施する予定である。</li> </ul>
	(2) 弁論大会等への参加を奨励し、参加者の指導を充実させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の英語スピーチコンテストの上位入賞者と参加希望者数名が応募した。</li> <li>来年度も継続して実施する予定である。</li> </ul>

## 19 家庭科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の充実向上を図る能力を育む。	(1) 指導内容の精選を行い、生活活動に関わる事柄について関心を持ち、知識・技術の定を図れるようわかりやすい授業を展開する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットなどを活用し、わかりやすい授業を意識できた。しかし、タブレットの使い方がなれず、ロスタイムがあったり、一人では見切れない生徒が出てきてしまった。</li> <li>ICT活用の方法について研鑽を積む。</li> </ul>
2. 実践的・体験的学習を通し、生活事象を科学的に考える力を高めると共に、安全・衛生面での意識を高揚させる。	(1) 自立した消費者を目指し、消費者教育の一層の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsと関連させ、消費に対する意識をつけることができた。しかし、時間をかけられず、自分で考える時間をもう少しとれば良かった。</li> <li>授業計画の見直し。</li> </ul>
	(2) 実験・実習等の体験的学習を重視し、思考力・実践力を高める。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験・実習共に思うように実施をすることができなかった</li> <li>感染対策を考え、クラスを半分に分けるなどして実施を検討したい。</li> </ul>



## 20 情報科

【様式1】

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1. 生徒の興味関心を高め、情報活用の実践力を高める。	(1) 文書処理ソフトを活用しながら、情報機器の基本的な使い方や情報機器を利用するときの注意点を理解させ、実践力を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文書処理ソフトを活用し多くの生徒が必要とされる力を身につけられた。タイピング速度も4月より上がり集中して取り組む姿を見ることが出来た。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の生徒のスキルに応じた指導を行っていく。</li> </ul>
	(2) 実技の時間を増やし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使い、情報を収集・処理・表現し、受け手に発信ができるような力を養う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを活用し実技の演習を行い、多くの生徒が必要とされる力を身につけられた。また、プレゼンテーションソフトを利用し発表を行い情報を発信する力を養えた。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦手な生徒に対して細かな指導をしていく。</li> </ul>
2. 情報社会に参画する態度を養う。	(1) 情報化が社会に及ぼす影響と課題、および個人の責任について理解させ、情報社会の一員としての能力と態度を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報モラルについての動画視聴を通じて個人の責任や社会への影響について考えさせることができた。また、互いに意見交換することで規範意識の高揚を図ることができた。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も動画視聴を通じて、年度の早い段階で情報モラル教育を行う。</li> </ul>